

【社会】 <中学校 第2学年>

1 結果のポイント

- 「地理的分野」について、世界の大陸の位置などについての理解をみる問題、統計資料などからデータを正しく読み取り、それらを基に考える力をみる問題の正答率は、80%を上回っている。
- 地図を活用して、太平洋側と日本海側の気候の違いをとらえる問題や、気候の違いを生み出している原因、山脈や山地の広がりや分布の理解をみる問題の正答率は、50%を下回っている。
- 「歴史的分野」について、日本の近代化と世界とのかかわりや産業革命の理解、アヘン戦争について考える問題の正答率は、70%を上回っている。また、資料から明治政府の改革や大日本帝国憲法における天皇の位置付けを読み取る問題の正答率は、70%を上回っている。
- 江戸時代の文化の理解をみる問題、江戸時代の農村の変化について考える問題、歴史上の大きなできごとが起きた場所を地図上に示す問題の正答率は、50%を下回っている。

2 結果の分析

(1)「知識・理解」の力をみる問題の例


<問題> 4の1 3の3

4 1 年表中の X にあてはまることばを書きなさい。

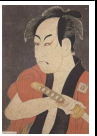
西 暦	おもなできごと
1894年	X 戦争が始まる

3 3 まことさんが年表中に示したア～エの作品の中から、元禄文化にあてはまるものを一つ選び、その符号を書きなさい。


ア




イ



ウ



エ



<結果> 4の1 正答率 79.1% (正答…日清) 3の3 正答率 23.2% (正答…ア)

<分析>

4の1「明治政府が積極的に近代化を進める中で、清やロシアと戦って海外にも進出したこと」の理解をみる問題の正答率は、70%を上回っている。4の4「蒸気力の発明による人々の生活の変化」、2の2(3)「盆地、扇状地、三角州の分布」の理解をみる問題の正答率は、70%程度であり、基本的な事項や用語等はおおむね理解できていると考えられる。

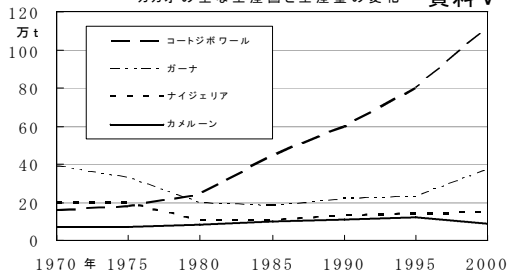
3の3「江戸時代の文化について、その文化の特徴と主な作品」の理解をみる問題の正答率は、23.2%である。誤答を分析すると、イ、ウ、エが同じように選択されていることから、その文化の作品や作者、文化の特色とその時代のかかわりの理解など、文化についての学習が十分でないと考えられる。今後は、学習指導要領に示されている、「代表的な事例を取り上げ、事例を通して当時の文化の特色を考えさせること」を踏まえるとともに、教科書に掲載されている作品などを積極的に活用して指導することが必要である。

(2)「資料活用の技能・表現」の力をみる問題の例

<問題> 1の5 4の2

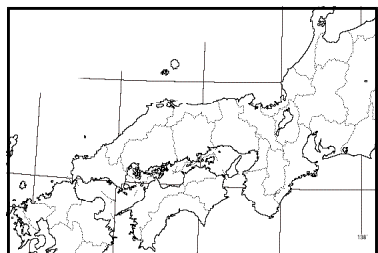
1 5 太郎さんは、ガーナで生産がさかんなカカオについて資料Vからア～エのように考えました。太郎さんが考えたア～エから最も適切なものを一つ選び、その符号を書きなさい。[選択肢ア～エは略]

カカオの主な生産国と生産量の変化 資料V



年	コートジボワール (万t)	ガーナ (万t)	ナイジェリア (万t)	カメルーン (万t)
1970	20	40	20	10
1975	20	30	20	10
1980	20	20	20	10
1985	40	20	20	10
1990	60	20	20	10
1995	80	20	20	10
2000	100	20	20	10

4 2 あやさんが年表中の下線①と下線②について調べたところ、下線①の薩長同盟を結んだ長州藩があった府県と、下線②の条約が結ばれた下関のある府県は同じ府県であることがわかりました。その府県を解答用紙の地図中に示された府県の中から一つ選び黒く塗りつぶしなさい。



※左は、解答用紙に示された地図
・生徒は、この地図の中から、あてはまる県(山口県)を選択して黒く塗りつぶす。

<結果> ①の5 正答率 93.3% (正答…ウ) ④の2 正答率 39.7% (正答…略)

<分析>

①の5「グラフから4カ国それぞれの生産量の変化を読み取る」問題の正答率は、93.3%であり、昨年度の類似問題「折れ線グラフの変化を読み取る」問題の正答率(63.9%)を上回っている。また、④の5「明治政府の改革を絵資料から読み取る」問題の正答率も、90%を上回っている。資料活用問題の正答率の平均は、75%程度であり、基本的な資料を読み取る力は身に付いていると考えられる。今後は、複数の資料を関連付けたり、資料の内容を深く読み取ったりするなど、多様な資料の読み取り方を指導することが必要である。

④の2「日清戦争の講和条約が結ばれた下関のある(江戸時代に長州藩と呼ばれていた)山口県を地図で示す」問題の正答率は、39.7%である。誤答を分析すると、地図中の様々な県が選択されており、下関条約を結んだ場所や、長州が現在の山口県にあたるということが十分に理解されていないと考えられる。また、山口県など、都道府県の位置が地図上で正しく理解できていないことも原因であると考えられる。今後、歴史上のできごとが起きた場所を地図上で確認することを繰り返し指導し、生徒が自分で地図を活用して確かめることが習慣になるよう指導することが必要である。

(3)「思考・判断」の力をみる問題の例

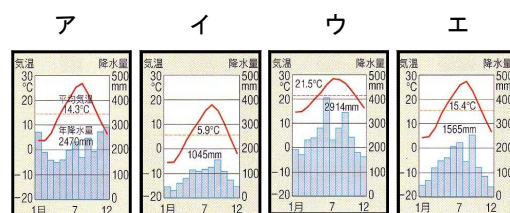
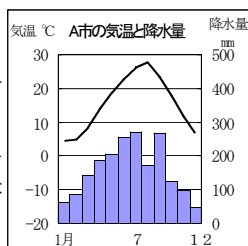
<問題> ①の3 ②の1(1)

① 3 太郎さんは、オーストラリアの貿易相手国の変化について、資料Ⅱから次のような説明文をまとめました。説明文中の①にあてはまる文章として最も適切なものをア～エから一つ選び、その符号を書きなさい。(資料Ⅱ及び選択肢は略)

1960年と2000年の輸出入総額に占める貿易相手国の割合を国別に見ると、2000年は1960年に比べて、主な貿易相手国として①ことがわかります。

② 1(1)

さち子さんは、A市と4つの市のグラフを比較して、地図1中の金沢市の気温と降水量をあらわしているグラフは、アであると考えました。さち子さんに代わって、その理由を簡潔に書きなさい。(地図1は略)



<結果> ①の3 正答率 85.9% (正答…ウ) ②の1(1) 正答率 45.4% (正答…略)

<分析>

①の3は、「オーストラリアの貿易相手国とその割合のグラフから、データの変化の様子をとらえ、適切に判断する力」をみる問題である。資料から数値、割合、割合の変化、資料中の国名を読み取ったり、読み取った事実から「上位国に共通していること」などを考えたりして、選択肢の記述を適切に判断することが求められる問題であるが、正答率は85%を上回った。資料から読み取った事実を根拠にして考える力が高まってきていると考えられる。今後も、課題解決の過程で、資料を読み取り、その資料からどんなことがいえるのか、どんなことが考えられるのかという、生徒自らが「考える場」を位置付けた指導を一層充実させていく必要がある。

②の1(1)は、「地図やグラフを活用し、太平洋側と日本海側の気候の違いを考える力」をみる問題である。この問題では、金沢市の位置とア～エのグラフ中の降水量に着目して考えることが必要であるが、正答率は50%を下回った。誤答を分析すると、多くの生徒は降水量に着目しているものの、ア～エのグラフの降水量の違い(アだけ冬の降水量が多い)に着目して考えたり、地図上で金沢市だけが日本海側にあることに着目して考えたりすることができていなかった。また、「日本海側は気温が高く雨が多い…」などの解答も多数あり、日本海側の気候の特徴を正しく理解していないと考えられる。資料を読み取る力を高めるとともに、学習指導要領に示されているように、「南と北、太平洋側と日本海側、内陸部と臨海部とで、気温、降水量とその月別の変化などに違いがみられ、それらを基にして各地の気候を比較すること」を踏まえ、基本的なことがらについての知識・理解を図った上で、関係やその事象が見られる理由を考える力を育てる必要がある。

また、この問題の無解答は、20.2%である。本年度の記述式の問題〔1〕の4、〔2〕の1（1）、〔4〕の7の無解答の平均は、17.4%であり、昨年度の21.2%より向上している。また、上記の3問とも無解答であった生徒は5%程度であることから、各学校における「自分の考えを表現すること」の指導の成果はあらわれてきていると考えられる。今後も、課題に対して、調べ、考えたことをまとめ、自分の言葉で表現する力を育てるために、授業において「書く時間」を十分に確保するよう努めるとともに、「テーマに基づいて書くこと」や「キーワードを用いて書くこと」など、生徒の書く力が高まるような様々な指導の工夫が必要である。

3 分析を踏まえた指導の改善

(1) 指導計画の工夫改善

自校の領域別・観点別学習状況を踏まえ、以下の点を参考にして、各学校の年間指導計画の見直しを図る必要がある。

- ・地理・歴史・公民の分野相互の関連を図り、第1～3学年までを見通して系統的に指導し、社会科らしい学び方が身に付き、ものの見方や考え方が広まったり、深まったりする学習となるよう努める。また、小学校及び中学校学習指導要領の目標と内容を十分踏まえる。
- ・「地理的分野」、「歴史的分野」とも、各分野の指導内容や指導時間に偏りが生じることがないようにする。特に、歴史の大きな流れや各時代の特色をあらわす文化、日本及び都道府県の概要や位置などの理解が深まるようにする。その際、教科書に掲載された資料や年表、地図帳などを積極的に活用する。
- ・「地理的分野」では、位置や分布を地図を用いてとらえることができるよう、地図や地球儀を活用する指導を一層充実させる。また、生徒が、実際に地図をかくような学習を繰り返し行うなど、学んだ内容を活用する時間を位置付ける。
- ・「歴史的分野」では、歴史の大きな流れを把握できるよう、指導計画、単位時間の授業の改善を図る。各時代の学習や事例を選択する学習においては、適切な授業時数を配当し、特に近現代史の学習の時間を十分に確保するとともに、事例を通して追究する学習を充実させる。

(2) 指導方法の工夫改善

「知識・理解」の確かな定着を図り、「技能・表現」、「思考・判断」の力を十分に身に付けさせていくために、以下の点に留意する。

- ・問題解決的な学習の充実を図り、社会的事象に対する生徒の興味・関心を高め、自ら課題を見付け、自ら調べ考え、課題を解決する力を育てる。例えば、「①問題を発見する ②追究の方法を検討する ③調べ考察し、判断する ④過程や結果を多様な方法で表現する」といった学習過程を具体的に示して指導し、問題解決的な学習の流れを確実に身に付けることができるようにする。
- ・積極的に多様な資料を活用するとともに、資料活用の技能を系統的に指導する。特に複数の資料を関連付けたり、資料を深く読み取ったりすることができるよう、意図的・計画的に指導し、読解力を高める。また、白地図作業やグラフの作成など、生徒自身が資料を作成するような時間を位置付ける。
- ・表現する力を付けるために、根拠となる資料をはっきりさせて考えをまとめたり、キーワードを用いてまとめたりするなどの指導を継続して行う。その際、書く時間やまとめる時間を十分に確保し、生徒が「自分が書いたまとめ」等を通して学習の成果を味わうことができるよう努める。
- ・「地理的分野」では、学習したことを実生活などで活用することを目指す指導を行う。例えば、新聞記事を活用し、その資料などから地域の様子について考えるような学習を行う。
- ・「歴史的分野」では、常に地図や年表を用いて学習し、歴史の大きな流れのなかで、各時代の特色や変化を読み取ったり、歴史上の出来事的位置を確かめたりしながら学習できるようにする。

(3) 学習環境の工夫、学習集団の育成

- ・資料の読み取りのポイント等を具体的に掲示するなど、生徒が主体的に学べる環境整備を進める。
- ・学び合う場面において、資料のどの事実を基に考えたのか根拠に着目したり、仲間の考えと似ているところや違うところを比べたりして、「聞く」ことを生徒の実態や発達段階に即して指導する。
- ・安心して学べる学習集団の育成のため、話し合いの視点を明確にし、どの生徒も自分の考えを確かにもって話し合いに参加できることを大切にする。また、お互いを認め合いながら、よりよい見方・考え方を求めていく喜びを味わえるようにする。